

七十七ニュービジネス助成金受賞

第18回(平成27年度)

企業 インタビュー

Interview

株式会社 セレクトィー

代表取締役 畠山 明 氏



会社概要

住 所：仙台市青葉区中央三丁目1番24号

設 立：平成8年

資 本 金：30百万円

事業内容：学習塾

従業員数：30名

電 話：022 (223) 5001

U R L：http://www.apple-net.jp/

専門講師の育成と科学的分析に基づく先進的な指導により、発達障がい児一人ひとりに応じた進学・就労サポート体制を構築

今回は「七十七ニュービジネス助成金」受賞企業の中から、株式会社セレクトィーを訪ねました。当社は、平成8年設立の小学生から高校生までを対象とする学習塾で、個別指導や家庭教師派遣等により、専門の教師によるマンツーマン指導を行っています。指導プランの一つとして、ノウハウを活かした専門講師の育成に努め、発達障がいを有する子ども(小中学生)への先進的な個別指導事業を展開し、年100名以上を受け入れ、進学・就職を支援しています。当社の畠山社長に、会社設立の経緯や学習支援等についてお伺いしました。

——七十七ニュービジネス助成金を受賞されたご感想をお願いします。

このような賞をいただけて非常にありがたく思うとともに、今後さらに事業のレベルを高めていかなければならないと感じました。今回の助成金は、発達障がい児への学習支援で使用する教材・教具の購入や講師の研修等に活用させていただきたいと思います。

みんなが満足できる授業を目指して

——会社設立の経緯について教えてください。

今年で設立20周年になりますが、以前は小学校で教師をしていました。クラスには勉強が得意な子や苦手な子、質問したくても手を挙げられない子等様々な子どもたちがいます。集団で授業をするとクラスの平均学力に合わせて指導を行うことになり、教師としてみんなが満足できるよい授業ができていないことを心苦しく感じていました。集団での学習指導には限界があると思い、生徒一人ひとりに合わせた指導を行うために小学生から高校生を対象とす

るマンツーマンに特化した学習塾を設立しました。



本部（アップルスクエア）

——社名の由来についてお聞かせください。

教師としての経験を活かした学習指導システム「System of Education for License Experience Creative Teacher」というコンセプトの頭文字をとって名付けました。個別指導塾と家庭教師は「アップル」の名称で展開しており、これはハートを重ねるとりんごの形に見えることが由来です。このハートは“生徒が勉強を頑張りたい気持ち”と“我々が学習指導を頑張りたい気持ち”のことで、生徒の気持ちに寄り添った指導に取り組んでいきたいとの思いから名付けています。



多様な可能性を活かして

——経営理念について教えてください。

「可能性がより良くいかされる教育サービスをデザインし社会に貢献する」としています。一般的な学習塾は有名進学校への合格実績を重視していますが、当社は実績を重視しつつも、資格試験を取りたい、苦手科目を克服するより得意科目を伸ばしたい、不登校や発達障がいによる学習課題を克服したい等それぞれのニーズに合わせた支援を行っていきたく考えています。学校や集団学習塾の授業についていけない子どもは進学が難しいと一括りにされてしまいがちですが、個性を見極め得意分野を伸ばしてあげることで目指せる学校があります。経営理念には、子どもが持つ様々な可能性を最大限に活かせる学習支援をしていくことで社会に貢献したいという想いが込められています。

——塾のスタッフについて教えてください。

スタッフは30名で、12ヵ所ある個別指導塾の管理者、保護者とのカウンセリング担当者、広報・マネジメント担当者、事務担当者等があり、学習指導を行っている者もいます。その他、当社に登録しているプロの教師が288名体制で指導を行っています。

マンツーマンによる学習指導では優しい雰囲気や安心感が生徒に受け入れられやすいため特に女性に向いていると感じており、スタッフも30名のうち24名は女性です。女性の採用強化や重要ポストへの登用等により女性の活躍推進に力を入れ始めてからは、接遇・サービスの質が向上しお客様からのクレームが減少しました。また、顧客満足度の表われである口コミ紹介率は、平成17年度の14%から平成24年度は36%と上昇しました。平成26年には、女性の接遇力の高さやきめ細やかさを活かした発達障がい支援等の取り組みが評価され、経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」として表彰していただきました。

スタッフがやりがいを持って働けるように当社はボトムアップ経営を心掛けています。可能な限り仕事を任せ、お客様に最適なサービスを提供するにはどうすべきか自分たちで考えながら仕事を進めて

もらい自由闊達な職場作りを目指しています。



本部風景

プロ教師によるマンツーマン指導

——事業内容について教えてください。

当社は、①個別指導塾、②家庭教師、③人材派遣・紹介、④研修・生涯学習の大きく分けて4つの事業を行っています。小学生から高校生までを対象とする個別指導塾と家庭教師が主要な事業で、大学生教師は起用せず学習指導の経験があるプロ教師によるマンツーマンの指導が当社の強みです。個別指導塾は他にもありますが、教師1名が生徒2～3名に指導をする形態がほとんどです。当社ではより質の高い指導を追求し、在籍する288名のプロ教師が一对一にこだわった授業を行っています。指導プランの一つとして、発達障がい児への先進的な個別指導も行っています。

人材派遣・紹介では、学校や塾、専門学校等の教育機関で教師に欠員が生じた場合、集団指導の経験者や教員免許のある教師を紹介させていただいています。

研修・生涯学習では、主に私がこれまでの経験をもとに各種教育機関等で教師のスキルアップセミナーや保護者向けに子育て応援セミナー等を開催させていただいています。

発達障がい児への学習支援

——発達障がい児への学習支援を開始された理由についてお聞かせください。

発達障がいとは、中枢神経系の機能不全のため、生まれつき認知やコミュニケーション、社会性、学習、注意力等の能力に偏りや問題を生じ、現実生活

に困難をきたす障がいのことです。話を聞くことが苦手で落ち着いて授業を受けられなかったり、文字を読んで理解することが苦手だったりと様々な課題を抱えています。話を聞くことや文字を読むことが苦手だからといって勉強ができないわけではなく、補助教具や教材を活用し学習能力を伸ばすことができます。

文部科学省の平成24年の発表では、小中学校の通常学級に在籍する子どものうち約6%（16～17名に1名）が発達障がいの可能性があると言われてますが、学校の教師による支援には限界があり、そのうち約4割に対しては特別な支援がなされていないとされています。また、これまでは生活支援の側面が強く、学習支援の取り組みはあまり行われていないのが現状です。それが私が小学校の教師をやめ当社を設立した理由の一つでもあり、学校で発達障がい児への支援が十分に行えていない中で一人ひとりに合わせた指導を行うため、会社設立時から指導プランの一つとして学習支援を開始しました。



子育てセミナー

——学習支援で使用する教材・教具の開発も行っていると伺いましたが教えてください。

生徒の苦手分野の負担を少しでも減らそうとスタッフや講師がアイデアを集めて様々な教材作りをしています。例えば、「集中しおり」は読む力が弱く文字がぼやけたり二重に見えるため教科書を集中して読むことが難しい生徒の補助教具として製作会社と共同開発したものです。半透明のしおりを教科書にあてることで、読みたい一文がフォーカスされ集中して文字を読むことができます。

アップルプラント 集中しおり

デザインパターンは2種類

デザインのパターンは2種類あります。お好きな方をお使いください。

■ストライプタイプ: はっきりしたハイライト



■グラデーションタイプ: やわらかなハイライト



この部分に
読みたい
文章を当てて、
1行ずつ読むと
読みやすいよ!

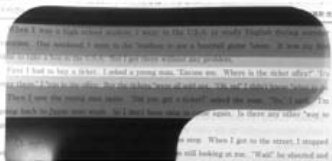
縦にしてお使いいただく場合



教科書や新聞など縦書きの
文章を読む際は縦にしてお使
いください。



横にしてお使いいただく場合



英語の長文や、横書き
の文章を読む際は横に
してお使いください。

アップル × IDEA PLANT

「集中しおり」

先進的な個別指導

——発達障がい児への進学・就労サポート体制についてお聞かせください。

指導の開始にあたり、まず最初にどんなことにお困りなのか、どのような支援が必要なのか等について詳しくカウンセリングをします。また、その生徒に適した学習・進路指導を分析するために「WISC-IV」知能検査等を行っています。これは、5歳～16歳11ヵ月の子どもを対象にした、世界で広く利用されている代表的な児童用知能検査です。アセスメントスキル（子どもを適切に評価する技術）を持つ専門講師が様々な質問やテストを行い潜在的に持っている能力を数値化し、学力や得意・不得意分野を把握することによって最適な個別指導計画の作成や講師の選定が行えます。

また、生徒の個性を活かした就労までを考えた学習指導のアドバイスもさせていただいています。事例を1つ紹介すると、カウンセリングの中で料理を作ることが得意であることが分かり、調理科への進学を決めた学生がいました。知能検査等の結果、彼

は声で聞いた情報を記憶することが苦手と分かったため、見て学べる教材を活用した学習指導を提案し、見事志望校の調理科に合格することができました。中学校までは、様々なトラブルがあり苦勞していましたが、高校では意欲的に学び、文化祭で桂むきの代表になるなど活躍しました。そして、卒業後は料亭で正社員として就職することができました。

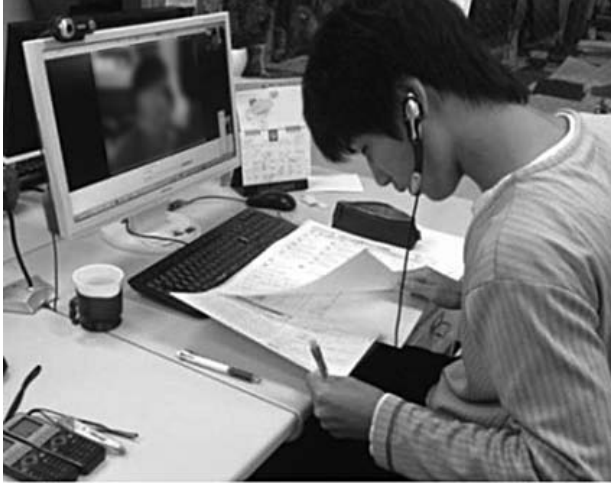
昨年、当社で指導を受けた発達障がいの生徒は志望校に100%合格しており、マンツーマンの指導は本人や保護者から高い評価をいただいています。今後はICTを活用した学習支援とアセスメントスキルを持つ専門講師の育成に力を入れて進学・就労サポート体制を強化していく予定です。



指導風景

——ICTを活用した学習支援について教えてください。

ICT教育とは、パソコンやタブレット型端末等の情報通信技術を用いた教育のことで苦手分野を補いながら効率的に指導を行えるメリットがあります。対面のコミュニケーションが苦手な生徒にはテレビ電話を使用することでストレスをかけずに指導が行えたり、作文を書くことが苦手な生徒にはキーボード入力を活用して書く負担を減らし、作文を仕上げる経験をさせることで取り組み意欲が高められます。このようにICTを活用することで授業のレベルを落とさずにかつ効率的に学習を行うことができます。今後は当社が培ってきたノウハウを活かしてICTを活用した独自の教材を開発し、指導のレベルを高めていきたいと思っています。



テレビ電話による指導

——アセスメントスキルを持つ専門講師について教えてください。

これまでの取り組みに対する口コミにより発達障がい児への学習支援の依頼件数は年々増加していましたが、専門講師の数が足りずに受け入れられる生徒には限りがありました。そこで平成23年6月に発達障がいについてより高度な研究を行うために学習能力開発財団を設立しました。これまで当社が教育事業で培ってきた知識や経験を活かし、大学や小児科医と連携しながら発達障がいの研究を行い専門講師を育成する先進的な指導プログラムを確立させました。

専門講師の育成には、1年間に40時間の研修が必要です。研修内容は、事例を通じた発達障がいへの理解、コミュニケーションの取り方、進路指導、ICT教材の使い方等です。また、課題を抱える子どもは自信を無くしてしまいやすいので、自分を評価する力を身に付けるための指導方法等について心理学や小児科医の先生から研修いただいています。

財団で確立した育成指導プログラムを活用して当社で専門講師の数を増やしたいと考えています。現在、専門講師は16名おり毎年20名の育成を目標にしています。また、通塾している生徒は約100名おり毎年1割ずつ生徒数を増やしていきたいと考えています。



専門講師育成のための研修風景

バランス経営

——発達障がい支援が民間企業による持続性ある事業として展開していくため重要だということをお聞かせください。

費用と収益のバランスを考えながら事業を進めることだと思います。当社の講師は生徒想いでつい指導にのめり込み授業時間を延長していることがありました。そうすると生徒にも講師にも負担がかかり、会社としても指導できる生徒数が減ってしまいます。目の前の生徒も他の生徒も大切にするという公平感を持つことと、決められた時間の中でICT教材をうまく活用し効率的かつ質の高い指導をすることで多くの生徒に学習支援ができるように伝えています。

発達障がい支援には、そのほかにも専門講師の育成のための人件費や教材・教具の購入費等、様々な費用がかかり、同業他社の参入障壁になっているのではないかと思います。当社は保護者間の口コミ紹介や小児科医の紹介が多く、広告宣伝費を抑えてその分を必要な費用等に充てられています。

仙台市が運営する発達相談支援センター「アーク」の窓口には年間7,000名程が訪れ、その相談の多くが子どもの勉強の遅れについてです。「アーク」で当社の話を聞き、塾にいらっしゃる方もいます。保護者の多くは子どもの将来を悲観し、悩んでいます。子ども自身も自信を失い、不登校やいじめ等に苦しんでいるケースも多くあります。今後は、発達障がい支援についての講演を開催する等して正しい理解を広め、当社で支援できる生徒を増やしていきたいと思っています。

震災遺児へ継続的な支援を

——震災遺児への学習支援活動もなされているようですが。

震災後に、被災地には両親を失った子どもがたくさんいることを知りました。自分にできることは何かを考えた時、彼らの将来の一助になればと思い震災直後から無料で学習支援を開始しました。避難所にいる様々なボランティア団体との出会いを通して感じたことは、一時期の支援ではなくそれを継続させる工夫が大切だということです。

子どもたちの要望は受験のための定期的な学習支援です。そのため定期的かつ継続的に支援できる講師のみが震災遺児支援を担っており、学習支援の報告・研修会を行うことで指導技術の向上も図っています。また、子どもたちから「相談できる人が欲しい」という声を聞き、遺児のメンタルケアに関する研修会を実施して、講師には勉強を教えるだけでなく子どもたちとの対話を大事にするよう伝えていきます。現在は週1回30名に支援をしており、主に講師が被災地へ足を運びますが、自宅に行けない子どもにはテレビ電話を使用して指導をしています。

この活動は、勉強をしたいという彼らの気持ちに添って全員が高校を卒業するまで続けていきたいと思っています。



学習支援風景

社会人向けの学習支援

——今後の事業展開について教えてください。

少子化の影響で塾業界は競争が激化しています。その中で当社が20期連続で売上を伸ばすことがで

きたのは、マンツーマンでの質の高い指導が皆様に評価いただけたからだと思います。最近では、社会人からTOEICの点数を上げるための指導や大学でもう一度勉強したいので受験指導をしてほしい等の依頼を受けることがあります。現在は小学生から高校生までを対象としていますが、今後は受け入れる年代を少しずつ広げていき、指導プランの一つとして社会人向けの学習支援等も行っていければと考えています。

自己肯定感を高める

——会社を経営する上で大切だと思うことについてお聞かせください。

従業員が働きやすい環境作りをすることです。その一つの方法として私は自己肯定感を高めることを大切にしています。自己肯定感とはありのままの自分を認めることです。短所を隠して完璧な社長を演じていると、どこかで強がりや見栄が出てきて自分も従業員も疲れてしまいます。できないことは素直に認めて従業員と助け合いながら仕事をするので強い信頼が生まれ、非常に会社経営がしやすくなったと感じています。ありのままの自分を認めるのは難しいことですが、是非挑戦して従業員が働きやすい環境を作って参りたいです。



畠山社長

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後ますますの御発展をお祈り申し上げます。

(28. 1. 26取材)